

平成24年度 事務事業評価シート

※平成23年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	教育普及・支援事業					継続				
コード	28	-	23	-	01	-	02	予算事業名	美術館運営管理	
担当部署	文化スポーツ部		美術館			予算事業コード	会計 02	款 01	項 18	目 01

1. 事業の位置付けと関連計画等

第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け 位置付けなしの場合

法令による実施義務 義務ではない

基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐぐむまち	根拠となる法令、条例等	地方自治法、川越市立美術館条例
方向性(節)	2節	歴史文化の継承と新しい市民文化の創造	個別計画等の名称	なし
施策	1	芸術文化活動の充実		
細施策	3	芸術文化鑑賞機会の充実		

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	全ての市民(市外も含む)を対象に、美術館賞・創作について学習する機会を提供し、美術への関心を高め理解を促す。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	職員(主に学芸員)が企画・立案する。講師等は外部に依頼(謝金対応)する場合も多い。美術に関する講演会、作品等を制作する実技講座、ワークショップ等を実施する。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額	1,221	808	1,116	799	930	
事業費	A	874	779	1,013	674	930
人件費	B	9,684	10,100	7,362	8,380	8,510
総コスト(C=A+B)		10,558	10,879	8,375	9,054	9,440
正規職員(1年間の従事人数)		1.30人	1.35人	0.97人	1.13人	1.15人
臨時職員(1年間の従事人数)		0.07人	0.12人	0.20人	0.02人	0.00人
国県支出金	D	0	0	0	0	0
その他特定財源	E	0	0	0	0	0
市の財政負担(=C-D-E)		10,558	10,879	8,375	9,054	9,440

※24年度、25年度の事業費、人件費は見込額
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

成果	中心指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	指標の定義
成果	実施事業の参加者数	人	1,972	1,849	1,564	1,658	主催・共催事業の参加者のべ人数
成果	実施事業の参加率	%	85.6	72.3	66.6	90.6	参加者数÷定員数(定員のあるもののみ)
成果	実施事業の開催数	件	70	95	77	60	主催・共催事業の年間開催数
成果	授業観覧来館学校数	校			102	96	

中心指標の考え方 本事業は、成果指標を中心に評価する。

指標に基づく評価 単に数値をみていくと減っている印象であるが、「実施事業の参加率」にみられるように濃い、言い換えればニーズに合った事業展開へと向かっている。

5. 事業の実施を通じた分析・評価

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題
21年度の美術協会から講師を仰ぐ実技講座や、22年度から始まったボランティアスタッフ制度で館職員をサポートするシステム作りなど、館外のマンパワーを活かす(これも教育普及の一環)方向ではあるが、ブレーンはあくまでごく少数の館職員という状況である。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	県内では収蔵品を持たずに教育普及に力を入れた美術施設「川口アートギャラリーアトリア」があり、講座などでボランティアスタッフが活躍している。当館同様に収蔵品を擁する「うらわ美術館」では、やはり活動のメインは展示であり、それに合わせた教育普及活動を実施している。
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	地域に密着した市立美術館として、単に展示活動をするだけでは片手落ちになってしまう。本物に出会える場だからこそできる活動、鑑賞、促し、共感などを提供する機会を逸する。
(4) 所属長自己評価(今後の方向性)	拡充
美術館は社会教育施設と位置づけられており、講演会、講座、ワークショップ等の事業を通して子どもを含め多くの市民に積極的に働きかけ、身近な存在となるような活動を展開していく必要がある。	